
題材[逃げられない,死神,もがく,まだまだだ]ボーイ・ミーツ・ガールでやってみよう！

木戸・山茶花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

題材「逃げられない，死神，もがく，まだまだだ」ボーイ・ミーツ・ガールでやってみよう！

【Nコード】

N4860Y

【作者名】

木戸・山茶花

【あらすじ】

題材「逃げられない，死神，もがく，まだまだだ」ボーイ・ミーツ・ガールでやってみよう！

(前書き)

習作

どうあがいても逃げられない状況というのは存在する。

それは、あるいは空腹であり、あるいは睡魔であり、あるいは、期末の学校テストだったりする。

パンピーならば、笑って済ませられるイベントも、とある高校生少女にとっては死神同然だった。つまりが、勉強が、実に、芳しくない一年三組五月奈々子にとっては。

友達にノートを借りればヨダレで汚し、友人に勉強を習っては呆れられ、もうどうしようもなく、赤点まっしぐらでしかない。

一応、奈々子自身は自分の未熟を痛感させられまくっているのもがく。もがきはするが、結果がでない。

これをどうしたものと友人らに相談しても、全員が全員、アンタ無理、と首を横に振るのだから、もう自分でもどうしようもないのかもしれないと、半ば諦めかけてきていた。

元々、今の学校は奈々子にとって、レベルが高すぎるのだ。

友達がいくなら、と選んだ高校は、その実、県内屈指の進学校。

某東やら京やらへの人材を多く輩出している。

奈々子は、滑り込みセーフの補欠合格だった。それでも受かった当初は喜んだものだが、今となってはそれも昔。目先のテストに苦悩する以外他にない。

今日も今日とて、図書室で勉強である。友人からノートのコピーを借り、もう二度と途中で寝まいと覚悟する。

そのかいあってか、三十分はノートと見合いできた。素晴らしい。今までは十分が限界だった。

が、その内容の一割程度も分からない。特に国語。漢字の読み書きはともかく、作者の思想信条なんて、どうやって推測しろいいのか。問題作成者が作者本人じゃなきゃなりたたない問題ではあるまいか。

愚痴っていても、勉強は進まない。愚痴らなくても、勉強は進んでくれない。

あー、うー、と頭を抱え、いつそ今のウチに退学届出も出したらいんじゃないかと思い始めてきたところに、奈々子は思いがけないものを見た。

苦労しながら勉強する奈々子の真正面。机を二つ挟んだ先に、一人の少年がいた。

襟章を見るに、三年生。受験勉強中なのか、大学の過去問題集を解いている。

が、奈々子が注目したのは、襟章に入ったラインの数でも、問題集の数式でもない。

少年、先輩の問題を解く早さだ。

ともすれば答えを既に知っているのではないかと思うくらいに、すらすらと解いていく。ぺらりぺらりと素早くめくられる問題集。その反対で、光速のごとき速さで動くシャーペン。

すわ秀才か、天才か。どちらにしろ、奈々子の正反対の存在だと、一目で分かった。

しかも、よくよく見直してみれば、結構なイケメンである。さらにと流れる前髪に、真剣で真摯な眼差し、男にしては肌が白く、しかし頼りない印象はどこにもない。

これは、と直感する。チャンスなんじゃあるまいか、と。

友人全員が降参した奈々子の駄目っぼさを、あの人ならばなんとかしてくれるのではないか。しかも、花の無い学園生活に、もしかしたらもしかしてうひひ。

いやいや、前者はともかく、後者はよくない。肉食系女子は、引かれるだけだ。そんなことを考えている場合でもない。

奈々子の唯一ともいえる美点は、思い立ったらそく行動する積極性だ。反面、後先考えないとも言いが、それは気にしない。

「あ、あの……」

奈々子が声を掛けても、先輩はしばらく気がつかなかった。二度、

三度と呼びかけて、やつとこちらを向いてくれる。

怪訝な瞳だ。初対面の人間から話しかけられれば当然か。まあ、しかしそこは持ち前の無神経さ、もとい、図太さ、じゃなくて、人懐っこさでカバーする。

「ちょっと、いいですか？」

恐る恐る、という風に尋ねてみると、先輩は手を止め、いいよ、と言ってくれた。

第一関門突破である。内心で拳を握りつつ、奈々子は自分のノート、ではなく友人のノートのコピーを見せる。まだ、ヨダレは付いていない。

「少し、苦戦してる問題がありました、よかったら、教えてもらえればなー、とったり思わなかったりして……」

遠慮がちに言うのと、先輩は、どれ、と手を伸ばしてきた。

第二関門も突破した。驚異の進展度であった。

先輩は、ああ、と問題を見直すと、さらりと答えを解いてのけた。しかも、奈々子にも分かりやすく、丁寧な説明だ。

友人たちではこうはいかない、と言ったらぶん殴られそうなことを考えつつ、奈々子は先輩の好意に甘えた。

「えー、他にもありまして……。えへへ」

先輩は、呆れながら問題を見てくれた。休憩ついであしいが、それでも奈々子にはありがたい。神の助けだ。

奈々子の理解が少しでも止まると、先輩はさらに詳しい説明をしてくれた。穏やかな口調が、耳に心地よい。

奈々子の抱える問題は山ほどある。それをずっと見てもらっているうちに、いつの間にか下校時刻になってしまった。

先輩も気がついたか、しまった、とぼやいていた。

「す、すみません」

気にしないで、気分転換になったから。そう言ってくれる気持ち、とても嬉しい。

これで終わり？　そう尋ねられたが、奈々子は、

「え、えへ……」

と誤魔化し笑いをしながら、山積みになったノートの山を指差した。

まだまだだ、と先輩も苦笑。期末テスト？ と聞かれたので、

「はい、ちょっと私は頭がアレなものでして……」

今度は本気で笑われた。

「そ、そこまで笑わなくてもいいじゃないですかあ」

ごめんごめん、と先輩は笑いながら謝ってくる。誠意は感じられない。

なので、こちららも怒った振りを続けていると、先輩は、また時間があったらみてあげる、と言ってくれた。

これぞ天の助けである。いやちよつと打算はあったのだが。

名を聞くと、やはり相手は三年生。三年五組の進藤と名乗った。

「あ、一年三組の、五月奈々子でひゅ」

囁んだ。さらに笑われた。

それからしばらく、奈々子の家庭教師ならぬ図書室教師は続き、無事に、テストを赤点なしに乗り越えることに成功する。

そこにちよつぴりのロマンスと、失恋があったのは、奈々子にとって、未だいい思い出となっている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4860y/>

題材[逃げられない,死神,もがく,まだまだだ]ボーイ・ミーツ・ガールでやってみ

2011年11月17日03時27分発行